



超長期ビジョン (30年) 「AOYAMA MIRAI VISION」



3Goals & 3Bases

— 教育・研究の3つのGoalと、3 Goalsを実現するための3つの基盤 (Base) —

Goal1

学院一貫教育

価値共有による
一貫教育が提供される

Goal2

教育・研究システム

すべての教育段階で
価値創造のための教育が
広く提供され、
多くの研究成果が組織的に
生み出される

Goal3

ソーシャル・エンゲージメント

すべての人と社会のための
「学びと研究の拠点」になる

Base1

環境基盤

Base2

組織基盤

Base3

財政基盤

長期目標（設置学校等の個別目標）・中期計画一覧

※事業計画は、2025年4月1日公開予定

3 Goals 3 Bases		長期目標（10年）2025-2034年度 学院目標	担当部局	長期目標（10年）2025-2034年度 個別目標	中期計画（前半5年）2025-2029年度 到達目標
学院 一貫 教育	【Goal 1】 価値共有による一貫 教育が提供される	4つの教育要素の共有 ・ 青山学院の「キリスト教教育」「国際教育」「先端科学教育」「想像 &創造教育」の4要素について、定義が明文化（共通言語化）され、学院 内において共通理解となつて いる。 ・ 4要素のうち、設置学校間で共通する方法（人権教育・平和共生教育・ STEAM教育等）があるものについては、それが明確となり、設置学校間 で連携して取り組まれている。 ・ 学院の内外において、これら4要素が青山学院の教育の特長として認 知されている。 系属校との共有 ・ 系属校と青山学院の理念と目指す人物像が共有されている。 ・ 系属校と4要素の共通理解と実践への参画、協働を可能にする取組がな されている。	教育・研究横断的 策定委員会	学院一貫教育のありたい姿（Goal1）を実現するた め、設置学校が連携した取組の実施と学内、学外への周 知・広報	・ 各設置学校が連携した新たな活動や取組を、少なくとも2つの教育要素について実 施する ・ 4つの教育要素を中心とした青山学院の教育の特長と、実施できた取組内容につい て、学内、学外への周知・広報を行う
教育・ 研究 シス テム	【Goal 2】 すべての教育段階で 価値創造のための教 育が広く提供され、 多くの研究成果が組 織的に生み出される	4つの教育要素の実践 ・ 「キリスト教教育」「国際教育」「先端科学教育」「想像&創造教 育」の4要素すべてについて、学院共通の定義のもとに、各設置学校にお いて成長段階に応じた教育が提供されている。 ・ 「想像&創造教育」については、イマジネーション（想像力）とクリ エイティビティ（創造力）を伸ばしイノベーション（改革）を起こす、他 にはないユニークな教育プログラムとして学院内外から注目されている。	高等部	キリスト教教育の多角化	・ 聖書の授業を中心に、教育活動全体により知識や理解が深まること。 ・ 他教科においても聖書の記述や歴史、価値観と関連した単元では、それらを意識し た構成となっている。 ・ 実際に訪問する教会や病院施設との連携の機会について話し合いが行われている。
				学内(国内)における国際交流プログラムの充実	日本に在ながらの新たな国際交流企画(オンライン、国内外国人)を実践している。
				先端技術と情報リテラシー教育の推進	HR教室を中心に高等部施設内の先端技術教育(ICT教育)のためのインフラの最適化 と、情報リテラシー教育、ICT機器利活用が校内の教育活動の多くの場面で行われて いる。
			中等部	平和・共生プログラムの充実・発展	既存のプログラム(修学旅行、ジョブtavi、バイブルキャンプ、宮古訪問プログラム、 スノーキャンプ等)の検証がされ、より充実したプログラムとなっており、新しいプロ グラムが1つ以上実践されており、さらなる検討が進んでいる。
				教科センター型校舎の活用	教科センター型校舎を活用した授業展開、メディアスペース（MS）の展示の充実・工 夫、課題の克服
初等部	建学の精神の体現	・ 神の前では生徒も教師も共に御言葉に導かれる礼拝と授業 ・ 高齢者など他者との交流を通して自己肯定感を高める機会提供 ・ 宿泊行事等を通して、実際に戦跡を訪ね、実際の体験談を聞き(最後の機会)、平和 の大切さを考える機会をもつ。			
		直接体験による「本物にふれる教育」の継続	直接体験による「本物にふれる教育」の継続		

長期目標（設置学校等の個別目標）・中期計画一覧

※事業計画は、2025年4月1日公開予定

3 Goals 3 Bases		長期目標（10年）2025-2034年度 学院目標	担当部局	長期目標（10年）2025-2034年度 個別目標	中期計画（前半5年）2025-2029年度 到達目標
教育・研究システム	【Goal 2】 すべての教育段階で 価値創造のための教育が 広く提供され、多くの研究 成果が組織的に生み出され る	4つの教育要素の実践 ・「キリスト教教育」「国際教育」「先端科学教育」「想像&創造教育」の4要素すべてについて、学院共通の定義のもとに、各設置学校において成長段階に応じた教育が提供されている。 ・「想像&創造教育」については、イメージネーション（想像力）とクリエイティビティ（創造力）を伸ばしイノベーション（改革）を起こす、他にはないユニークな教育プログラムとして学院内外から注目されている。	幼稚園	キリスト教保育を通じた、神と人ともに仕える人間形成	保育者は、礼拝を中心とした教会生活の充実と信仰の養いを中心とした生活を送っている。クリスチャンである保育者を神様がキリスト教保育の場で用いてくださることを信じ、互いに励まし合い折り合い、子どもに仕えることを通じて神様に仕える者として働く日々を送っている。教会学校との連携を図っている。
			幼稚園	遊びを中心とした保育を大切にする。	子どもたちが遊びの中で自分の好きなことを見つけて繰り返し楽しみ、探求し、発見し、時に葛藤し、失敗し、試行錯誤し、達成感を得、また次への意欲を得ていく。また、遊びの中で友だちと出会い、楽しい思いを共有し、相談し、協力し合う経験を重ねている。時には思いがぶつかり合うこともあるが、保育者の助けを得ながら、互いの思いを知り、そこからどうやって折り合いをつけていこうかと道を見つけ出していくことができている。このようにして、遊びを通して子どもたちの中に生きるために必要な力が養われている。
	教育手法と学ぶ人の拡充 ・対面による教育と遠隔（バーチャル含む）による教育の最適なバランスが保たれ、ライフスタイルや学習目的に応じた教育手法が取り入れられている。 ・その教育手法が広く社会に認知され、属性にとらわれず多様な層から学ぶ人を受け入れている。	大学	多様性を認め合う人材の教育プログラムの確立と多様な人が集い、協働する知的交流拠点の創出	ダイバーシティ環境の実現のための対話と行動の徹底	
		高等部	リアルな体験や学びとオンラインやバーチャルな体験や学びの融合	授業や行事などの対面による教育活動の意義が検証されている。新しいVRやメタバースの利用方法やその意義や課題が検証されて、活動が始まっている。	
		中等部	ICT環境の整備	1人1台パソコンを持つようになり、生徒全員が快適な環境で使えるよう、アクセスポイントの増設など環境を整備する	
		初等部	直接体験と間接体験のバランスが取れた教育の実践	直接体験と間接体験のバランスが取れた教育の継続	
		大学	知の創造を促す教育プログラムと体系の確立 ※p.1の同タイトルと同一		
		高等部	教員の授業力強化による探究的な学びの深化と個別最適な学びの促進	・スクールポリシー(グラデュエーションポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)が確立している ・教員の教育技術研修が継続的に行われている ・生徒一人ひとりに合った課題のためのAIソフトなどの研究が始まっている	
			平和・共生プログラムの充実・発展 ※p.1の同タイトルと同一		
	中等部	デジタル・ポートフォリオの作成	デジタル・ポートフォリオの作成と規格の統一		
		外部プログラムへの参加	生徒個々の興味・関心・能力に応じ、外部のプログラムやコンテスト、検定試験などを紹介し、自らの能力を磨き、目標をもって挑戦する機会をサポートする。		
	初等部	児童それぞれの賜物を生かす教育の実践	児童それぞれの賜物を生かす教育の実践の継続		
	幼稚園	豊かな保育を可能とする人的環境の保障	保育者の研修、研究の更なる充実が図られている。働きながら更に上の学位を取得するための学びを続けられる環境が整っている。働き方改革を念頭に置いて、教職員のワークライフバランスを実現するための施策が推進されている。		
		新園舎の環境を生かした保育の構築	新園舎・新園庭を生かした保育の計画を検討し立案の後、実践している。		

長期目標（設置学校等の個別目標）・中期計画一覧

※事業計画は、2025年4月1日公開予定

3 Goals 3 Bases		長期目標（10年）2025-2034年度 学院目標	担当部局	長期目標（10年）2025-2034年度 個別目標	中期計画（前半5年）2025-2029年度 到達目標	
教育・研究システム	【Goal 2】 すべての教育段階で価値創造のための教育が広く提供され、多くの研究成果が組織的に生み出される	地球市民の育成 ・ 海外との交流プログラム・協働プログラムが拡充され、正課（教育課程）・正課外（教育課程外）を問わず日常的に海外の学生・スタッフ等と協働する場が提供されている。 ・ 地球市民として世界の人々や様々なもの（テクノロジーや自然等）と関わり合い、自然界のあらゆる生命体を視野に入れた価値創造のための教育が提供されている。	大学	地球規模での共感と社会貢献を実現する人材教育の確立	地球規模で連携した教育の実践	
			高等部	海外プログラム・留学プログラムの充実と多様化	既存のプログラム(短期交換留学、カナダホームステイプログラム、フィリピン訪問プログラム、東ティモールスタディツアー等)の検証がされ、より充実したプログラムとなっており、新しいプログラムが実施に近い形で準備されている。	
				学内(国内)における国際交流プログラムの充実 ※p.1の同タイトルと同一		
			中等部	海外との交流プログラムの充実 国際的視野の獲得	中等部の国際交流プログラムをより充実・拡大し、より多くの生徒たちに海外でのプログラムに参加してもらい、異文化体験をしてもらう。同時に、教員の負担の少ないサステナブルかつグローバルな交流プログラムを構築する。	
				国際交流におけるコミュニケーションツールとしてのICT機器のさらなる活用	国際交流におけるコミュニケーション・ツールとして、これまでの対面に加え、ICT機器を積極的に利用し、さらなる交流を推し進める。語学の学習において、VRやメタバースなどを実験的に導入し、仮想空間の中で国際交流を行い、その成果について検証する。一方、チャットルームを利用し、留学生たちと身近に接する機会も増えている。	
			初等部	世界を知り、世界の中で自分の賜物を生かせるようにする教育の実践	世界を知り、世界の中で自分の賜物を生かせるようにする教育の実践の策定	
		幼稚園	全ての命に敬意を持ち、グローバルな価値観の中で生きる。	MCL（ミンダナオ子ども図書館）、CFJ（チャイルド・ファンド・ジャパン）の物理的な支援を続けている。特にMLCとはオンラインでの交流を継続している。そして相手方を一人ひとりの人として理解し、その国(地域)の環境をより良く知り、日本(自分たち)にない豊かさに気づき、互いを大切な命として覚え、交流を続けている。		
			環境問題に意識を向け、自分たちに出来ることを考える。子どもたちが環境問題に年齢なりに取り組んでいく。	保育のカリキュラムを見直し、子どもたちが絵本や保育者の話を通して、環境問題における課題を知る経験を積み重ねている。残飯を出さない、コンポストを利用する、廃棄されるものの再利用の方法を幼児なりに探るなど、これまで続けてきたことを継続している。		
			生涯学習の拡充 ・ 一生涯において教育と居場所を提供し、働き方の多様化によるキャリア形成の変化にも対応した教育が拡充されている。	大学	一生涯学び続ける人間教育の確立とそれを受け入れるプログラムの開発	生涯教育プログラムの拡大
			組織的な知の集積と発信 ・ 学院内外の研究者との共同研究が促進され、組織的に知の集積と発信を促す取組がなされている。 ・ 複数分野で青山学院大学の高い研究力が広く社会に認知されている。	大学	大学を超えた地球規模での研究コミュニティの確立と連携するプラットフォームの構築	地球規模での大学連携と共同研究の推進と主導
	長期的価値に基づく独自研究のサポート体制の確立	歴史的、文化的価値の追求				
		先端研究への挑戦				
		先導的・共創的人材の育成				
				キリスト教研究とその他研究分野との共同による研究の発展		

長期目標（設置学校等の個別目標）・中期計画一覧

※事業計画は、2025年4月1日公開予定

3 Goals 3 Bases		長期目標（10年）2025-2034年度 学院目標	担当部局	長期目標（10年）2025-2034年度 個別目標	中期計画（前半5年）2025-2029年度 到達目標
エ ン ゲ ー ジ ャ メ ル ン ・ ト	【Goal 3】 すべての人と社会の ための「学びと研究 の拠点」になる	開かれた学びと新たな価値の創造 ・ 学校を取り巻く多様な人々や諸機関と創造的に関わり合い、社会課題の解決や社会に対する新しい価値創造の実績が積まれている。	大学	社会課題の解決に向けた地域と一体化した開かれたコミュニティの構築	地域社会の発展に寄与する知の拠点の構築 ステークホルダーに向けた研究成果の外部発信の強化
			高等部	学内(国内)における国際交流プログラムの充実 ※p.1の同タイトルと同一 平和・共生プログラムの充実・発展 ※p.1の同タイトルと同一	
			中等部	中等部を取り巻く社会との連携	渋谷・表参道という地の利を生かし、中等部周辺の施設、OB・OG、企業と連携をはかり、生徒たちが様々な分野で活躍する方がたの話を聞いたり、体験したりするプログラムを行う。
			初等部	校外の人と関わる教育の実践	校外の人と関わる教育の実践の策定
		大学	開かれた研究拠点の創出 ・ 多様な研究者を受け入れ、積極的に研究ネットワークのイニシアティブをとり、研究の創発（「創造と想像」の発信）の場となっている。	長期的価値に基づく独自研究のサポート体制の確立 ※ p.3の同タイトルと同一 地域課題と教育・研究の連携	地域課題と教育・研究の連携による共同事業の創出
		環 境 基 盤	【Base 1】 3Goalsを実現するための教育研究環境を整備	・ 青山学院が今後も社会から求められる学校であるための、多様な在校生の受け入れや適正な学校規模に関する方向性の検討・決定と周知 ・ 教育研究環境の整備に資するキャンパス再開発計画 ・ 教育研究環境の整備を見据えた青山キャンパス老朽化建物の建替え計画 ・ 青山学院相模原キャンパス・校外施設等の課題整理・方針策定・実施	法人対応委員会
施設計画分科会	教育研究環境の整備を見据えた青山キャンパス老朽化建物の建替え計画 青山学院相模原キャンパス・校外施設等の課題整理・方針策定・実施				AOYAMA VISION160の期間前半に整備を必要とするキャンパス再開発計画を成案とする 短大跡地に記念館・7号館部室等の建替え 課題と懸案事項を整理し、課題ごとに方針・スケジュールの作成、可能な課題から実施
法人対応委員会	教学-経営間の適切な意思決定・ガバナンス体制の確立				教学-経営間の適切な意思決定・ガバナンス体制の合意と可視化
人事計画分科会	各設置学校における取組み目標の現状を把握し、人事部の目標達成に向けた具体的な取組みとの関連について、その内容や方向性の確認を毎年行い、必要により、随時取組み内容の再検討等や方向修正を行いながら、各設置学校の10年後の目標達成に向けた取組みに沿った事務組織の支援体制を構築していく。				
組 織 基 盤	【Base 2】 3Goalsを実現するための組織機構の整備	・ 教学-経営間の適切な意思決定・ガバナンス体制の確立 ・ 各設置学校における教職協働体制の構築を担える職員の人材配置及び育成 ・ 今後10年間で人事部が取組むサーバント・リーダー輩出に資する人事政策の実行	人事計画分科会	今後10年間で人事部が取組むサーバント・リーダー輩出に資する人事政策の実行	管理職をはじめとする各年代層に向け育成のための研修機会を提供する。現在の人材育成を主眼とする人事制度の課題について優先順位をつけ、必要な改革を行っていく。また、人事政策として業務の多様化や専門化に応じた人材配置を行うとともに、現状、業務の外部委託が可能な業務について外出しの可能性も含めて検討していく。
			人事計画分科会	今後10年間で人事部が取組むサーバント・リーダー輩出に資する人事政策の実行	管理職をはじめとする各年代層に向け育成のための研修機会を提供する。現在の人材育成を主眼とする人事制度の課題について優先順位をつけ、必要な改革を行っていく。また、人事政策として業務の多様化や専門化に応じた人材配置を行うとともに、現状、業務の外部委託が可能な業務について外出しの可能性も含めて検討していく。
財 政 基 盤	【Base 3】 3Goalsを実現するための財政基盤の確立	・ 財政基盤確立のための数値目標の設定及び目標達成のための方策の検討・実行 ・ 学院財政における10年収支試算表の作成・更新 ・ 在学生等への経済的支援充実に向けた原資の再構築 ・ 万代基金拡大を目的とした資金運用の推進			